

金属労協第52回定期大会

議長挨拶

金属労協議長 西原浩一郎

金属労協・JCM第52回定期大会に、ご参集の代議員・傍聴の皆さん。大変ご苦労様です。

なお本定期大会には、ご来賓として連合より古賀会長、また昨年6月に結成された新たな国際産業別組織インダストリアル・グローバルユニオンに金属労協とともに日本から加盟するインダストリアルJAFの島田議長、なお島田議長はUAゼンセン副会長でありインダストリアル副会長でもあります。さらに同じくインダストリアルJAFの佐藤事務局長、そして金属労協からスイス・ジュネーブのインダストリアル本部に派遣している松崎造船・船舶解撤およびICT電機・電子部門担当部長にご臨席いただきました。

ご来賓の皆さんには、後ほどご挨拶をいただきますが、全員の拍手で感謝と歓迎の意を表したいと思えます。

昨年の大会以降、金属労協は、国内労働運動では金属ものづくり産業の健全成長、特に国内産業空洞化を阻止し、産業・企業の国内事業基盤維持・強化を通じた良質な雇用の維持・創出を第一義とした働く者の立場からの政策制度の取り組み、および2013年闘争でのJC共闘を基軸とする金属産業にふさわしい労働条件確立への取り組みを中心に幅広い分野で活動を進めてまいりました。

また国際労働運動では、インダストリアル執行委員会・財政委員会等の機関会議を中心に、インダストリアルが、国際連帯の力でILO中核的労働基準をはじめ世界の産業労働者の基本的諸権利を確立・擁護し、雇用と公正な労働条件を確保する効果的な活動を展開しうる体制の確立に向けた建設的な意見反映を、他の日本加盟組織と連携し進めるなど、インダストリアルの中核的組織としての役割と責任を果たすべく努力してまいりました。

特にアジア太平洋地域議長組織として、アジア太平洋地域の活動推進に向け、地域における旧3組織の連携体制の確立などの体制整備を中心に、新組織結成初年度の活動に寄与してまいりました。

一方で金属労協にとり、引き続き多発する日系企業海外事業体における労使紛争案件の解決と建設的な労使関係の構築に向けた活動を懸命に進める1年でもありました。

これら国内外にわたる活動で、なお持ち越した重要課題・問題が山積していることは事実ですが、大会冒頭にあたり、中央・地方を通じての、この1年の金属労協の活動に対し、積極的なご理解・ご支援を頂いた産別・企連・単組・地方ブロックの皆さんに心から感謝申し上げたいと思えます。

◆アベノミクスへの認識と評価

さて、これまでの活動経過を踏まえ、当面の課題を中心に何点かに絞り議長としての所見を申し上げたいと思います、

はじめに、いわゆる安倍政権の進める政策体系の中心に位置する、いわゆるアベノミクスへの認識・評価についてであります。

金属労協はこれまで、日本経済全体、特に地方経済を支える金属ものづくり産業の維持・強化と長期安定雇用を基軸とする良質な雇用の維持・創出の観点で、デフレ経済からの早期脱却と国際競争力を著しく毀損する過度の円高の是正に向けた大胆かつ迅速な量的金融緩和を求め、政府・日銀・政党に対し懸命な働きかけを展開してまいりました。

したがって主要通貨に対するこれまでの過度の円高水準が今日、是正局面にあることを歓迎しますし、今後、為替水準が一層の是正方向で安定化することを期待するところです。

また消費者物価の推移から判断してデフレ脱却への期待が醸成されつつあることも、認めるところです。ただし物価については直近の物価上昇が、円安による燃料・原材料費等の輸入物価の押し上げ効果による電気・ガソリン等エネルギー価格上昇の比重が大きいことから、実体経済の回復を通じた雇用・所得環境の改善が寄与する形でのデフレ脱却でなければ、単に家計を圧迫するのみであることに留意する必要があります。

さらに金属労協は金属ものづくり産業にとって死活的に重要なアジア太平洋地域の貿易・投資ルールづくりに関わる広範な分野での自由貿易体制の強化を図る観点から政府に対しTPP交渉への参加を要求してまいりました。

したがって政府のTPP交渉正式参加を評価するとともに、今後、政府がTPP交渉においてWTO・世界貿易機関のルールに則して「事実上のすべての貿易」について関税撤廃を進めることにより「包括的で次世代型の地域協定」になる方向で積極的に寄与すること、および、盛り込まれることとなっているILO中核的労働基準の順守をはじめとする労働基準と環境条項の内容の充実、さらには実効性の担保を強く求めてまいります。

以上、るる申し上げてきましたがその上で、成長戦略をはじめとするアベノミクスの本質的な問題への懸念を表明せざるをえません。

すなわちアベノミクス全体の印象は、旧来型の公共投資を中心とするばらまき政治と、新自由主義に基づく目先の経済成長に特化しており、この先、自己責任論に基づく過度の競争至上主義が助長され、社会全体、とりわけ雇用と勤労者の生活がさらに疲弊しかねないことを強く危惧いたします。

①健全な社会を作るための分配政策の欠如

より踏み込んで申し上げれば大きく二点、すなわち一つは、健全な社会を作るための分配政策が決定的に欠けているということです。自由主義経済において健全な経済・社会を可能とする大きな要素は、「競争」と「分配」という、ある意味、相反する要素のバランスにあると考えます。

この点においてアベノミクスには、税・社会保障政策をはじめとする分配構

造の強化を通して、進行する貧困と社会的格差にストップをかけ、健全な社会を目指すという視点が欠落していると思わざるをえません。

分配の観点では、企業の生み出した付加価値の中小企業も含めたサプライチェーン全体での公正配分や、我われ労働組合の主要な活動のフィールドとなる雇用・労働条件改善への公正配分の確立も重要です。

②ワークルールの改悪で雇用・就労環境の悪化を大いに懸念

二点目は健全な経済・社会の基盤となる雇用・労働政策において、労働者保護ルールをゆるめ、大胆な規制緩和に大きく舵をきる方向が示されていることは、金属産業はもとより日本の産業の存立基盤を揺るがし、雇用社会日本の弱体化を加速させかねないということです。

日本再興戦略では、表現上、政治的意図からトーンダウンはしているものの、政府の産業競争力会議や規制改革会議等での論議・検討内容から判断すれば、今後、解雇ルールや労働時間法制、労働者派遣制度、社員区分等、広範な範囲でワークルールが改悪され、雇用・就労環境がさらに悪化することが大いに懸念されます。

いずれにしても、これまでの論議・検討に労働組合が全く関与していないことから、その内容が現実の様々な企業行動や現状の雇用・就労環境への認識に欠け、目指す改革の方向性がもたらす深刻な事態への洞察力と想像力に欠けていることは明らかだと考えます。

これまで労使が協議・交渉あるいは政労使合意等を通じて積み上げてきたワークルールの改悪することは、勤労者の雇用・生活の将来不安を助長し、モチベーションを低下させ、生産性向上努力を弱めることにつながりますし、ひいては金属産業をはじめ日本企業が今後も守り抜くべき本質的な強みを大きく阻害することにつながるものと考えます。

金属産業に働く者は額に汗し、たゆまぬ日々の努力の積み重ねにより、熾烈な国際競争下にあって、苦闘し、幾多の試練を乗り越えてまいりました。今なお試練の中で抜本的な事業構造改革の取り組みを余儀無くされている組合も多いと思います。

その際、職場が厳しい事業構造改革に懸命に取り組むその背景には、産業・企業の健全成長こそが、雇用・生活の安定につながるとの確信があるわけであり、雇用安定と公正処遇への信頼が揺らいだときに、果たして企業の将来展望を切り拓いていくことが可能なのか。このことを今一度、経営者の皆さんには深く考えてもらいたいと思います。

なお組織率が18%を切る状況下にあって、全ての働く者を代表しナショナルセンター・連合が今後の具体的対応・行動において、その前面に立つことになると考えますが、その際、金属労協加盟産別が連合の行動に積極的に参加・対応していかなければならないと考えます。

◆2014年闘争に向けて

次に2014年闘争に向け、賃金改善を中心に申し上げたいと思います。

まず2013年闘争では、交渉環境変化の影響が、産業・企業毎に大きく異

なる中で、産別・各組合には懸命かつ真摯な交渉を展開していただきました。

その結果として、全体としては組合員の生活を守り、モチベーションを維持し、経済を底支えする観点で、労働組合としての一定の役割は果たすことができたものと考えます、

特に賃金は、賃金構造維持分・賃金改善分が明確に区分できる組合の内、91.5%の組合が賃金構造維持分を確保し、中堅・中小労組を中心に386組合が、賃金改善分を獲得しました。

なお今次闘争過程では、政府より経営諸団体に対し「報酬の引き上げ」が要請されました。

そのメッセージ内容自体はデフレ脱却に向けた勤労者の所得環境向上の重要性の観点から理解できるものの、賃金・一時金をはじめとする労働条件は、春季生活闘争において、労働組合が勤労者生活、経済や物価動向、生産性、企業実態等を勘案し責任ある要求を掲げ交渉に臨み、労使自治の下に決定すべきものであります。

何よりも政府がなすべきは政府自らが直接的な実行手段を持ち、責任のとれる領域での雇用・労働環境の整備であり、所得環境改善の観点から急がれるのは、雇用が不安定で所得水準が低位にある非正規労働者の拡大をくい止め、正規登用を促進し、正規労働者との均等・均衡待遇に向け規制強化を進めることだと考えます。

その上で2014年闘争においては、金属労協加盟産別が足並みをそろえ整齊と、賃金改善を行う方向で積極的な検討を進めていただくことを議長の立場から要請いたします。

全体としては経済・産業状況が好転しつつあり、特に長期にわたるデフレからの脱却の兆しが表れつつある今、デフレ脱却と景気回復を確実なものにするためには、金属労協としてその影響力を自覚し、労働組合として、よりマクロの視点、および社会的役割発揮の観点を重視することが強く求められると認識いたします。

デフレの背景には需給ギャップ、特に需要サイドの慢性的な弱さが大きく作用していることは明らかであり、消費の活性化に向けた所得環境の改善は喫緊の課題です。

金属労協はこれまで賃金・労働条件の向上と企業発展の好循環による安定的な成長の実現をめざし、金属産業を支える人への投資の重要性を訴えつつJC共闘を進めてまいりました。

この考え方を基軸にしつつ、我われの主体的意思として、金属産業・企業の人材力を守るために、物価上昇局面に入りつつある今、加えて継続する社会保険料負担の増を踏まえ、実質可処分所得確保に留意し、組合員の実質生活水準の維持を図り、生産性に相応しい生活向上分への反映を意識し、賃金改善分の要求・獲得に向けた積極的な検討を皆さんにお願いしたいと思います。

なおここ数年、JC共闘では格差改善・是正等の観点からの中堅・中小労組を中心とする賃金改善の取り組みが定着しつつあり、賃金改善獲得組合も4年

連続で増加しています。

2014年闘争は、金属労協全体の取り組みが中堅・中小労組の取り組み、特に賃金の絶対水準の底上げに貢献する観点も大切にしたいと考えます。

いずれにしても金属労協全体が、改善分要求・獲得に向けたマインドシフトを図り、様々な観点からの検討と理論武装を加速していきたいと考えますし、そのことが連合金属部門共闘を通して、連合全体の春季生活闘争への貢献につながることを重視してまいりたいと思います。

◆国際労働運動の推進にあたって

最後に、国際労働運動の観点から申し上げたいと思います。

冒頭にも申し上げましたが、日系金属産業・企業の海外事業体における労使紛争が、アジア地域を中心に依然として多数、発生しています。

金属労協として、継続的に当該地域のインダストリアルオール加盟組織等からの紛争解決に向けた支援要請を受けており、案件毎に、インダストリアルオール本部等とも連携し、当該産別・労組と調整・連携を図りつつ、公正な解決・事態改善に向け活動を進めていますが、案件によっては、当該労使以外の様々な支援組織の介入により、かえって事態が複雑化・困難化する事案も見られます。一方で企業の対応がILOの中核的労働基準に抵触するとの指摘に基づく深刻な事態も発生しているのが実態です。

とりわけアジアを中心とする新興国では急速な経済発展と民主化の進展、インフレ下における最低賃金の大幅な引き上げと労働基本権強化が進む中、様々な局面で現地労使間の認識ギャップが拡大していると実感するところです。

大切なことは、現地労使がコミュニケーションラインを日常的に強化し、労使双方が、互いの立場や考え方への理解を深め、信頼関係を高め、建設的な労使関係を着実に構築していくことにあります。

労使紛争の多くで、その背景として、現地労使の「お互いの顔が見える」直接対話ができているなど、日頃からの労使コミュニケーションがうまく機能していないことがあげられます。

金属労協は活動方針に基づき、国内外における労使を対象とする建設的な労使関係構築に向けたセミナー・ワークショップ等に引き続き取り組んでまいりますが、是非、認識していただきたいのは、親会社労組として、まずは現地労組との連携関係の確立と支援スタンスの明確化を基本として、労働組合の立場から海外事業体の労使関係への関与を進めてもらいたいということです。

国際連帯の重要性が増す中であって、インダストリアルオールの活動推進にあたって、日本の労組および労使のスタンスが、あらためて問われる状況にあることをご理解いただきたいと思えますし、このような観点からの産別・労組の取り組みにあたっては金属労協として、できうる限りの具体的な支援・協力を提供してまいります。

◆結成50周年の節目

まだまだ触れなければならない点多々ありますが、時間の関係上、この後の議事に譲りたいと思えます。

金属労協は明年、結成50周年を迎えます。

財政の厳しい金属労協としては簡素な式典等は検討していきたいと思いますが、何よりも、この間の諸先輩が進めた金属労働運動への誇りを胸に、積み上げた価値ある活動へ思いを馳せながら、皆で精一杯の活動を推進し、達成感をもって50周年の節目の時を迎えたいと思います。

皆さんの金属労協・JCMへの引き続きのご支援・ご協力を、あらためてお願いし大会冒頭に当たっての挨拶と致します。ありがとうございました。

以上